

免疫チェックポイント阻害薬の併用療法により劇症型心筋炎が発症

免疫チェックポイント阻害薬は多くの癌において臨床転帰の改善をもたらしたものの、高度の免疫関連有害事象がみられ、とくに免疫療法の併用において起こりやすい。本研究では、ニボルマブ（商品名：オプジーボ）とイピリムマブ（商品名：ヤーボイ）の併用療法により、致死的な心筋炎を発症したメラノーマ患者 2 名について報告した。2 人とも筋炎を発症し、横紋筋融解、難治性進行性の心臓電気的不安定性、そして T 細胞とマクロファージの強い浸潤を伴った心筋炎が合併してみられた。心筋に浸潤していた T 細胞クローンと同じものが、腫瘍および骨格筋にも同定された。市販後調査では、ニボルマブとイピリムマブの併用療法の 0.27% に心筋炎が発症しており、稀で潜在的に致死的となる T 細胞誘導性の薬剤反応を起こし得ることを示唆している。

出典：The New England Journal of Medicine. 2016; 375: 1749-1755